



WAE Device Manager GUI の使用方法

この章では、Wide Area Application Services (WAAS) Central Manager GUI とは異なるインターフェイスである WAE Device Manager GUI を使用方法について説明します。WAE Device Manager は、ネットワーク内の個々の Wide Area Application Engine (WAE) デバイスを制御し、監視できる Web ベースの管理インターフェイスです。WAAS Central Manager デバイスには、WAE Device Manager インターフェイスがありません。多くの場合、WAE Device Manager と WAAS Central Manager GUI の両方に同じデバイス設定が存在します。そのため、できるだけ WAAS Central Manager GUI からデバイス設定を構成することを推奨します。

WAE Device Manager でデバイス設定を変更すると、変更は WAAS Central Manager に伝搬し、そのデバイスのグループ設定を更新します。あとで WAE Device Manager から構成した設定をグループ設定で更新したい場合は、WAAS Central Manager GUI のグループ更新機能を使用できます。詳細については、「[グループ設定の変更](#)」(p.3-9) を参照してください。



(注)

この章では、ネットワークに存在する WAAS Central Manager と WAE を総称する用語として「WAAS デバイス」を使用します。「WAE」は、WAE アプライアンスおよび WAE ネットワーク モジュール (NME-WAE デバイス ファミリ) を示します。

この章の構成は、次のとおりです。

- [WAE Device Manager の起動](#) (p.10-2)
- [WAE Device Manager の概要](#) (p.10-3)
- [WAE 管理作業のフロー](#) (p.10-4)
- [Cisco WAE の管理](#) (p.10-5)
- [WAFS Core の管理](#) (p.10-22)
- [WAFS Edge デバイスの管理](#) (p.10-23)
- [WAE の監視](#) (p.10-28)
- [WAE ログの表示](#) (p.10-37)

WAE Device Manager の起動

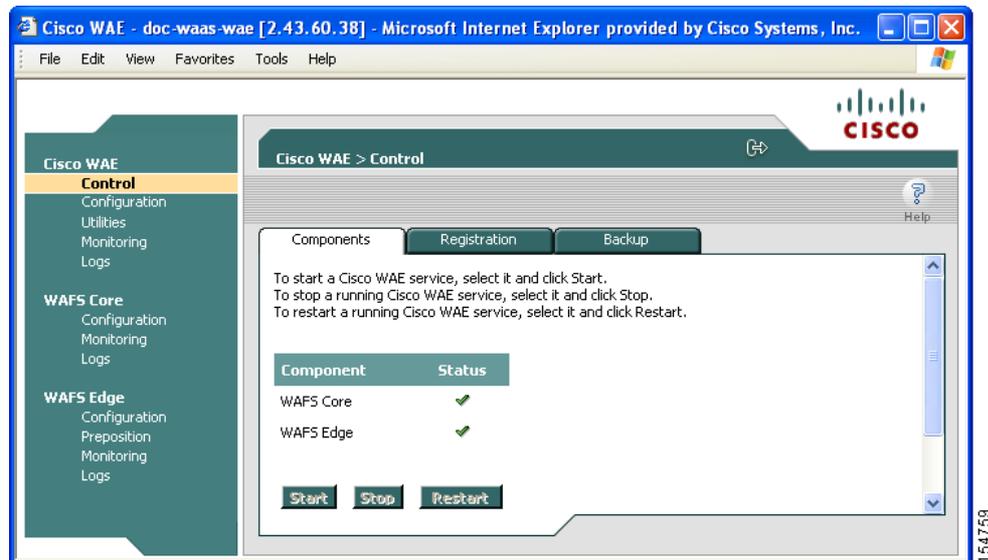
各 WAAS デバイスは、WAE Device Manager の Web ベースのインターフェイスを使用して個別に管理します。WAE Device Manager は、Internet Explorer を使用して、Cisco WAAS ネットワークの任意の位置からリモートに起動できます。

WAE Device Manager を起動するには、次のいずれかの方法を使用します。

- `https://Device_IP_Address:8443/mgr` へ進みます。
WAE Device Manager の [Login] ウィンドウが表示されます。提供されるフィールドにユーザ名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。デフォルトのユーザ名は `admin`、パスワードは `default` です。
- WAAS Central Manager GUI から、[Device] > [Devices] を選択し、管理したいデバイスの横にある [Edit] アイコンをクリックし、ウィンドウの中央にある [Device GUI] ボタンをクリックします。

WAE Device Manager インターフェイスが表示されます (図 10-1 を参照)。

図 10-1 WAE Device Manager インターフェイス



WAE Device Manager の概要

WAE Device Manager は、2 つのセクションに分かれています。左側の領域には、移動領域が表示されます。右側の領域には、移動領域から選択したオプションに関する情報が表示されます。

移動領域を使用すると、さまざまな WAE コンポーネント用の管理画面を移動できます。移動領域には、次のオプションがあります。

- **[Cisco WAE]** — WAE コンポーネントの起動と停止、WAE の登録と登録解除、設定ファイルのバックアップと復元、およびさまざまな WAE ユーティリティの使用が可能です。詳細については、「[Cisco WAE の管理](#)」(p.10-5) を参照してください。
- **[WAFS Core]** — WAFS コアに接続しているファイル サーバのリストを表示し、アクセス ユーザ名とパスワードのようなファイル サーバの詳細を指定できます。詳細については、「[WAFS Core の管理](#)」(p.10-22) を参照してください。
- **[WAFS Core]** オプションは、この WAAS デバイスをコア デバイスとして設定した場合のみ表示されます。詳細については、[第 11 章「WAFS の設定」](#) を参照してください。
- **[WAFS Edge]** — CIFS 設定を構成し、名前の登録を実行し、事前配置作業を監視し、WAFS コア接続を表示できます。詳細については、「[WAFS Edge デバイスの管理](#)」(p.10-23) を参照してください。

[WAFS Edge] オプションは、この WAAS デバイスを WAFS Edge として設定した場合のみ表示されます。詳細については、[第 11 章「WAFS の設定」](#) を参照してください。

移動領域のオプションには、選択すると表示領域に追加タブを表示するサブオプションがあります。表示領域の必須フィールドには、アスタリスク (*) が付いています。必須フィールドに値を入力しないで **[Save]** をクリックすると、エラー メッセージが表示されます。エラーが発生したウィンドウへ戻るには、**[Back]** リンクをクリックします。

表に表示される情報は、列見出しをクリックすると並べ替えることができます。もう一度見出しをクリックすると、情報が逆の順序で並べ替えられます。

Device Manager の中を移動するとき、現在の位置が常に表示領域の一番上に表示されます。

WAE Device Manager からログアウトするには、表示領域の右上部にある  アイコンをクリックします。



(注)

WAE Device Manager を使用するには、ブラウザで JavaScript、クッキー、およびポップアップ ウィンドウを有効にする必要があります。

WAE 管理作業のフロー

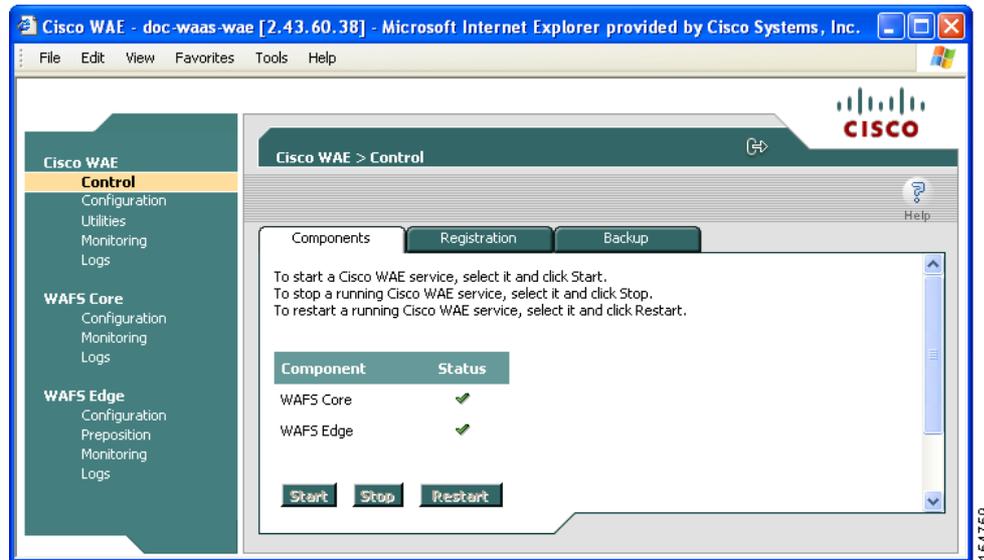
(『Cisco Wide Area Application Services *Quick Configuration Guide*』の説明に従って) WAE を配備し、登録したあとで、WAE Device Manager を使用して次の処理を実行します。

- 「コンポーネントの起動と停止」(p.10-6) の説明に従って、コンポーネントを起動し、停止します。
- 「WAE の登録と登録解除」(p.10-7) の説明に従って、WAE を登録し、登録を解除します。
- 「設定ファイルのバックアップ」(p.10-8) の説明に従って、設定ファイルをバックアップし、復元します。
- 「Windows 認証の設定」(p.10-11) の説明に従って、Windows 認証を設定します。
- 「通知設定の定義」(p.10-17) の説明に従って、コンポーネント固有の通知受信者を定義します。
- 「[Utilities] オプション」(p.10-18) の説明に従って、WAE 保守ユーティリティを実行します。
- 「[Preposition] オプション」(p.10-25) の説明に従って、Wide Area File Services (WAFS) エッジデバイスで実行した事前配置作業の詳細、現在の状態、および履歴を表示します。
- 「WAE の監視」(p.10-28) の説明に従って、SNMP が生成する情報と各 WAE コンポーネントに関するグラフを表示します。
- 「WAE ログの表示」(p.10-37) の説明に従って、各 WAE コンポーネントに関するログを表示します。

Cisco WAE の管理

移動領域の Cisco WAE メニュー項目を使用して、WAE コンポーネントのステータスの表示や WAE 上のコンポーネントの起動と停止のような基本操作を実行します。図 10-2 に、[Cisco WAE Control] ウィンドウを示します。

図 10-2 [Cisco WAE Control] ウィンドウ



[Cisco WAE] メニュー項目には、次のオプションがあります。

- **[Control]** — 「[Control] オプション」 (p.10-5) の説明に従って、WAE とそのコンポーネントを制御できます。
- **[Configuration]** — 「[Configuration] オプション」 (p.10-9) の説明に従って、基本的な設定作業を実行できます。
- **[Utilities]** — 「[Utilities] オプション」 (p.10-18) の説明に従って、WAE でさまざまな保守ユーティリティを実行できます。
- **[Monitoring]** — 「WAE の監視」 (p.10-28) の説明に従って、WAE の CPU とディスク利用率に関する表とグラフを表示できます。
- **[Logs]** — 「WAE ログの表示」 (p.10-37) の説明に従って、さまざまな WAE サブシステムに関するイベント ログを表示できます。

[Control] オプション

[Control] オプションは、次のタブを表示します。

- **[Components]** — 各 WAE コンポーネントの動作ステータスを表示できます。任意のコンポーネントを起動、停止、および再起動できます。詳細については、「コンポーネントの起動と停止」 (p.10-6) を参照してください。
- **[Registration]** — WAE を WAAS Central Manager に登録し、登録を解除できます。詳細については、「WAE の登録と登録解除」 (p.10-7) を参照してください。
- **[Backup]** — WAE 設定ファイルをダウンロードして保存し、必要なら、これらのファイルを WAE に復元できます。詳細については、「設定ファイルのバックアップ」 (p.10-8) および「設定ファイルの復元」 (p.10-9) を参照してください。

コンポーネントの起動と停止

[Components] タブを使用すると、どのコンポーネントが動作し、どのコンポーネントが動作していないかを表示し、コンポーネントを起動、停止、および再起動できます。

このタブから **[Refresh]** をクリックすると、各コンポーネントのステータスを更新し、WAE Device Manager インターフェイスを更新して、WAAS Central Manager GUI から行った最近の変更を反映できます。WAE Device Manager にログインするとき、デバイスを WAFS エッジデバイスに設定すると、**[Refresh]** をクリックするか、再び WAE Device Manager にログインするまで、この変更は反映されません。



(注)

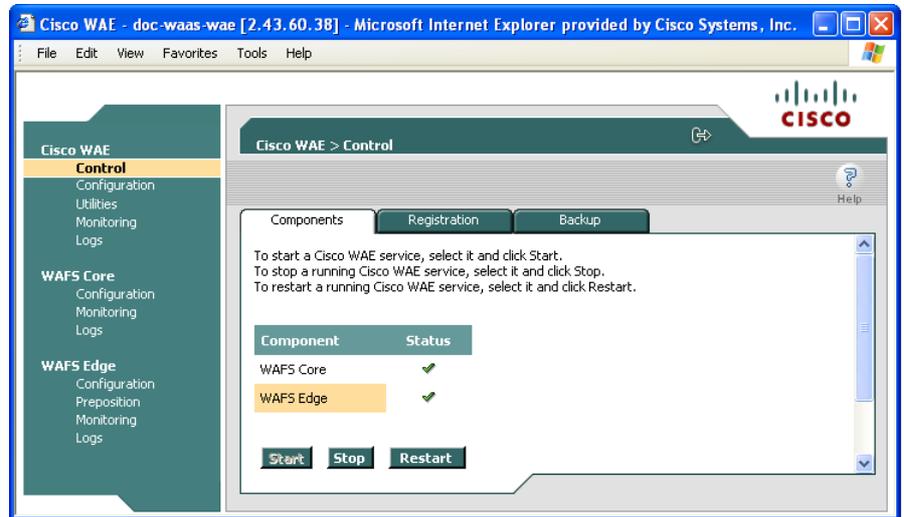
コンポーネントが動作していない場合、そのほとんどの設定をオフラインで実行できます。ただし、コンポーネントに行った設定変更は、再起動しないと有効になりません。

コンポーネントを起動および停止するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [Cisco WAE Control] ウィンドウの [Components] タブで、アクティブにしたいコンポーネントを選択し、**[Start]** をクリックします。

数秒後に、[図 10-3](#) に示すように、選択したコンポーネントの横に、そのステータスが動作中であることを示す緑色のチェックマーク  が表示されます。

図 10-3 [Components] タブ — コンポーネントの起動



- コンポーネントを停止するには、リストからコンポーネントを選択し、**[Stop]** をクリックします。
- 数秒後に、選択したコンポーネントの横に、動作していないことを示す赤色の  が表示されます。
- WAE コンポーネントを再起動するには、リストからコンポーネントを選択し、**[Restart]** をクリックします。
- WAE コンポーネントの現在の状態を表示するには、**[Refresh]** をクリックします。

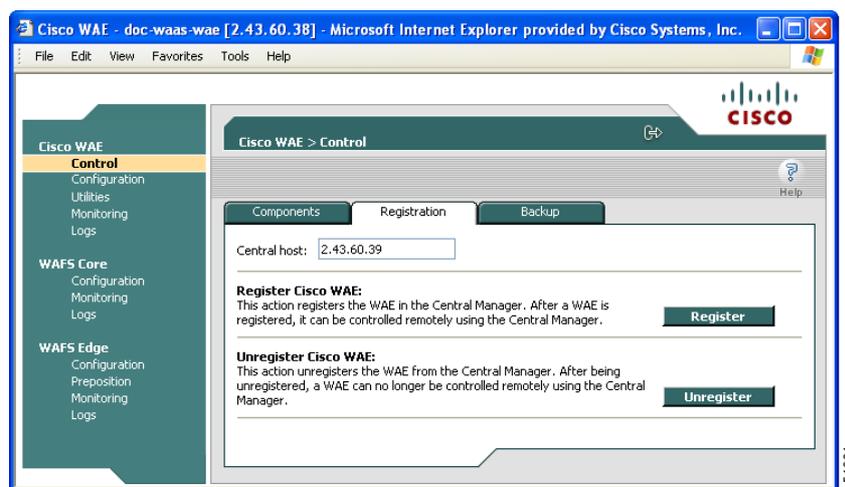
WAE の登録と登録解除

[Registration] タブを使用すると、指定した WAAS Central Manager に WAE を登録したり、WAE の登録を解除できます。WAE を登録すると、WAAS Central Manager GUI から WAE を表示し、管理できます。

WAE を登録するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [Cisco WAE Control] ウィンドウで、[Registration] タブをクリックします (図 10-4 を参照)。

図 10-4 [Cisco WAE Control] — [Registration] タブ



- ステップ 2** [Central Host] フィールドで、WAAS Central Manager のアドレスが表示されることを確認します。このフィールドにアドレスが表示されない場合、WAE は Central Manager に登録されていません。

- ステップ 3** [Register] をクリックして、WAE を登録します。

「Registration will update the WAE properties in the WAAS Central Manager. Are you sure?」メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。成功すると、「Appliance registered successfully」メッセージが表示されます。

- ステップ 4** [Unregister] をクリックして、Cisco WAE の登録を解除します。

成功すると、「Appliance unregistered successfully」メッセージが表示されます。



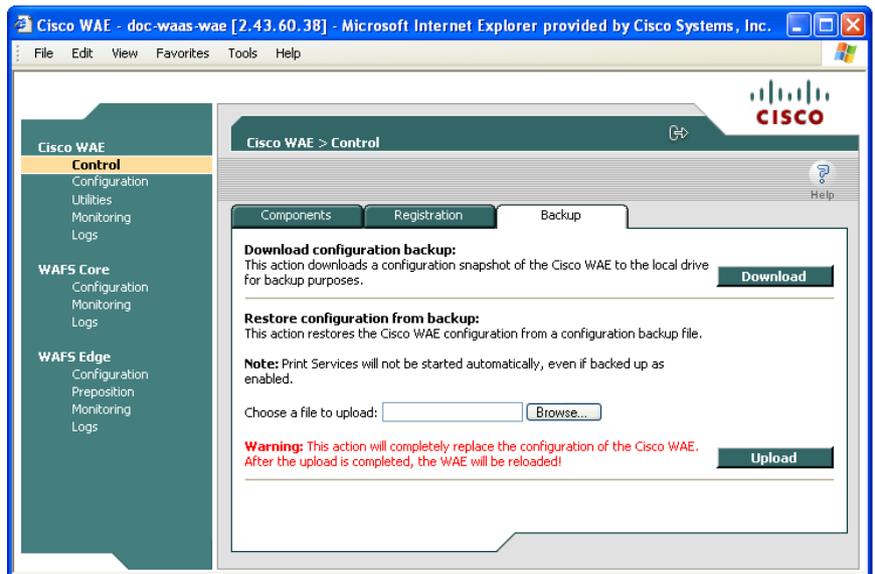
(注) WAE の登録を解除すると、WAAS Central Manager GUI でそのために定義されているすべてのポリシーが削除されます。

設定ファイルのバックアップ

[Backup] タブを使用すると、WAE の設定ファイルをバックアップおよび復元できます。
WAE 設定をバックアップするには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [Cisco WAE Control] ウィンドウで、[Backup] タブをクリックします (図 10-5 を参照)。

図 10-5 [Cisco WAE Control] — [Backup] タブ



ステップ 2 [Download configuration backup] 領域で、[Download] をクリックします。

ステップ 3 [File Download] ウィンドウで、[Save] をクリックします。

ステップ 4 [Save As] ウィンドウで、ファイルを保存したい位置まで移動します。また、ファイル名を変更することもできます。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

WAE 設定ファイルが選択した送信先フォルダへダウンロードされ、1 つの圧縮ファイルに保存されます。

バックアップからファイルを復元する方法については、「設定ファイルの復元」(p.10-9) を参照してください。

設定ファイルの復元

[Backup] タブを使用すると、WAE の設定ファイルを復元できます。設定を復元すると、WAE はバックアップを実行する前の状態へ戻ります。

設定ファイルを復元するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [Restore configuration from backup] 領域から、**[Browse]** をクリックして、復元したいバックアップファイルの位置まで移動します。

ステップ 2 **[Upload]** をクリックして、選択した設定ファイルを復元します。



(注) アップロードが完了すると、WAE がリロードされます。

[Configuration] オプション

[Cisco WAE] メニュー項目の [Configuration] オプションは、次のタブを表示します。

- **[SNMP]** — WAE でイベント MIB とログトラップを有効にできます。詳細については、「[SNMP 設定の構成](#)」(p.10-10) を参照してください。
- **[Networking]** — 『Cisco Wide Area Application Services Quick Configuration Guide』に説明されているデバイスの初期設定中に定義した WAE 設定を表示できます。詳細については、「[ネットワーク設定の表示](#)」(p.10-11) を参照してください。
- **[Windows Authentication]** — Windows 認証がデバイス ログイン、切断モード、および CLI 設定を有効にするために WAE に必要な設定を定義できます。詳細については、「[Windows 認証の設定](#)」(p.10-11) を参照してください。
- **[Notifier]** — WAE がアラートを生成したときに通知を送信する電子メール アドレスを定義できます。詳細については、「[通知設定の定義](#)」(p.10-17) を参照してください。

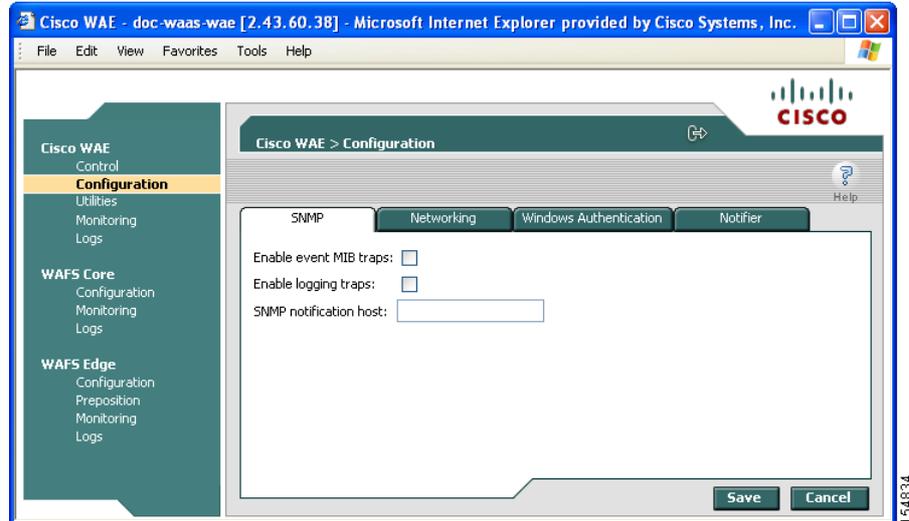


(注) 同じ [Notifier] オプションが、WAFS Edge および WAFS Core コンポーネントに使用できません。

SNMP 設定の構成

[SNMP] タブを使用すると、Cisco WAE で SNMP 設定を構成できます。SNMP 設定を構成するには、[Configuration] ウィンドウの [SNMP] タブをクリックします。[SNMP] タブが表示されます (図 10-6 を参照)。

図 10-6 [WAE Configuration] — [SNMP] タブ



このタブでは、次の設定を構成できます。

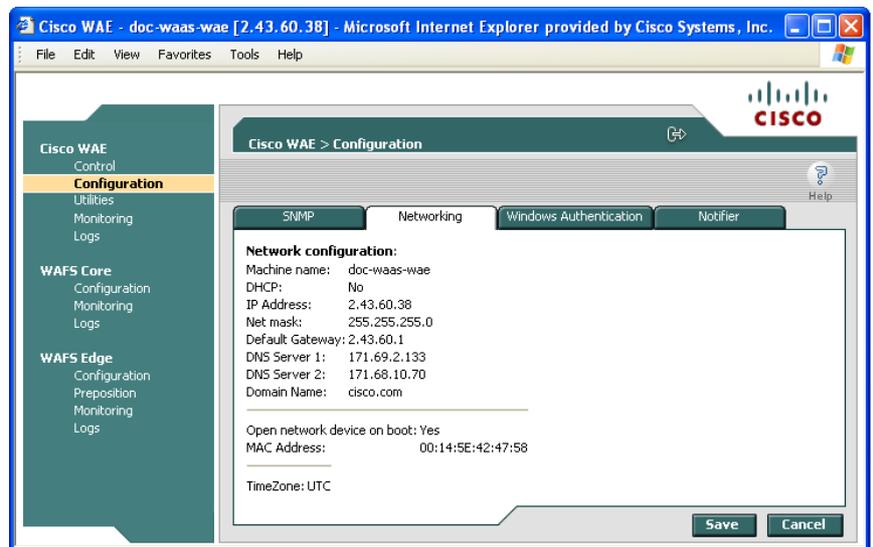
- **[Enable event MIB traps]** — このオプションを選択すると、WAE は、[SNMP notification host] フィールドに指定した SNMP ホストへイベント MIB トラップを送信できます。
- **[Enable logging traps]** — このオプションを選択すると、デバイスでログトラップを有効にできます。
- **[SNMP notification host]** — WAE が MIB およびログトラップをホストへを送信できるように、SNMP ホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

このページで変更を行ったあとで **[Save]** をクリックするか、**[Cancel]** をクリックして変更を取り消します。

ネットワーク設定の表示

[Networking] タブ (図 10-7 を参照) を使用すると、WAE と LAN 間の接続パラメータを表示できます。WAE 接続設定を表示するには、[Configuration] ウィンドウの [Networking] タブをクリックします。

図 10-7 [Cisco WAE Configuration] — [Networking] タブ



[Networking] タブには、次の情報が含まれます。

- [Machine name] — WAE のホスト名
- [DHCP] — ネットワークで DHCP サーバが使用できるかどうか
- [IP Address]
- [Net mask]
- [Default Gateway]
- [DNS Server 1]
- [DNS Server 2]
- [Domain Name]
- [MAC Address]
- 時間帯

Windows 認証の設定

WAAS Central Manager GUI と WAE Device Manager は、プラグイン可能な認証モジュール (PAM) を使用してユーザ ログインを認証します。WAAS Central Manager GUI で定義した管理ユーザは、WAE Device Manager へ配信されます。管理ユーザ認証は、WAAS Central Manager GUI または WAE Device Manager へのログイン時のみ実行されます。各 WAE にはデフォルトの GUI および CLI ユーザがあり、そのユーザ名は `admin`、パスワードは `default` です。このユーザアカウントは削除できませんが、パスワードは変更できます。



(注)

CLI ユーザ アカウント情報と管理 GUI 設定が一致しない場合は、設定配信時に管理 GUI 設定が一致しないすべての CLI ユーザ アカウント情報を更新します。CLI ユーザ アカウント設定を構成すると、ユーザにこの動作を知らせる警告が CLI ユーザに表示されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ローカル データベースを使用したログイン認証および許可について」 (p.10-12)
- 「サポートされている認証方式」 (p.10-12)
- 「LDAP サーバ署名」 (p.10-12)
- 「Windows 認証の設定」 (p.10-13)
- 「Windows 認証ステータスの確認」 (p.10-15)

ローカル データベースを使用したログイン認証および許可について

ローカル ユーザ認証および許可は、ローカルで設定されたユーザ名とパスワードを使用して、管理ユーザ ログインの試行を認証します。ログインとパスワードは、各 WAE のローカルです。

デフォルトで、ローカル ユーザ ログイン認証が、一次認証方式として有効になります。ローカル ユーザ ログイン認証を無効にできるのは、他の管理ログイン認証方式を有効にしたあとだけです。ただし、ローカル ユーザ ログイン認証を無効にすると、その他のすべての管理ログイン認証方式が無効になった場合に、ローカル ユーザ ログイン認証は自動的に再度有効になります。

Windows ドメイン認証は、別のユーザ ログイン認証方式です。コンソール、Telnet、FTP、SSH、または HTTP (WAFSCentral Manager および WAE Device Manager インターフェイス) を使用して、Windows ドメイン ユーザを認証できます。

サポートされている認証方式

WAE で Windows 認証を有効にすると、ドメイン コントローラに登録するときのユーザ、WAE、および印刷サービスの認証プロセスの安全性を強化する追加設定を構成できます。

WAFS は、WAE で次の Windows 認証方式をサポートしています。

- **NTLMv2 認証** — ほとんどの Windows オペレーティング システムに組み込まれている認証プロトコル
- **Kerberos** — 秘密鍵暗号方式を使用し、Windows 2003 Server に組み込まれている Windows 認証プロトコル

LDAP サーバ署名

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバ署名は、Microsoft Windows Server のネットワーク セキュリティ設定の設定オプションです。このオプションは、WAE のような LDAP クライアントの署名要件を制御します。LDAP 署名は、LDAP パケットがネットワークの途中で改変されていないことを確認し、パッケージ データが既知の送信元から発信されたことを保証するために使用されます。

WAAS ソフトウェアでは、ドメイン セキュリティ ポリシー用の LDAP サーバ署名要件オプションを「Require signing (署名が必要)」に設定すると、Windows 2003 ドメインを使用したプリント サービスとログイン認証がどちらもサポートされます。LDAP サーバ署名機能により、WAE はドメインに参加してユーザを安全に認証できます。



(注) LDAP 署名を要求するように Windows ドメイン コントローラを設定するときは、CLI から **smb-conf section "global" name "ldap ssl" value "start_tls"** グローバル設定コマンドを使用して、WAE 上の LDAP サーバ署名も設定する必要があります。このオプションは、WAE Device Manager インターフェイスを使用して有効にできません。**smb-conf** コマンドを使用する方法については、『Cisco Wide Area Application Services Command Reference』を参照してください。

Windows 認証の設定

[Windows Authentication] タブを使用すると、WAE 上のセキュリティ設定を構成できます。

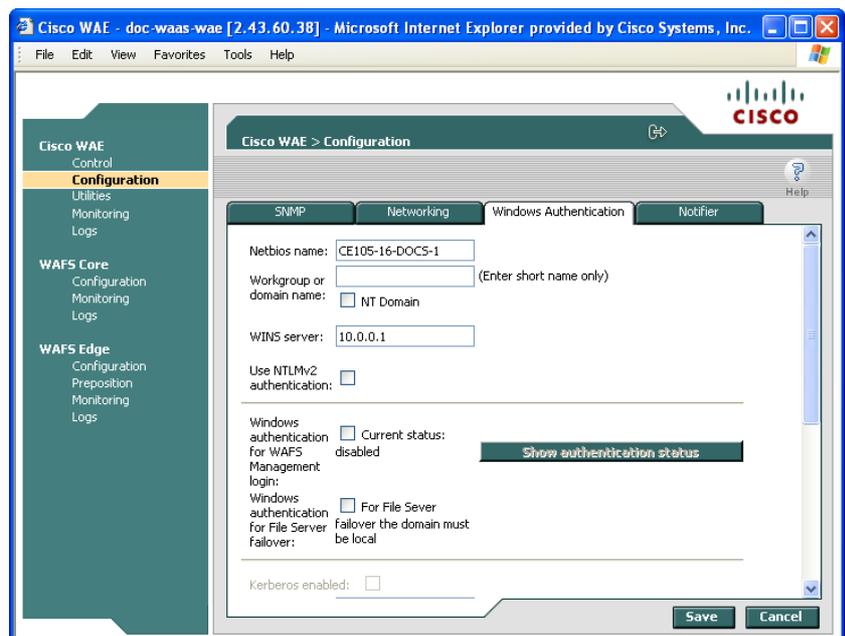
Windows 認証を設定するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 WAE Device Manager にログインします。

ステップ 2 [Configuration] ウィンドウで、[Windows Authentication] タブをクリックします。

[Window Authentication] ウィンドウが表示されます (図 10-8 を参照)。

図 10-8 [Cisco WAE Configuration] — [Windows Authentication] タブ



ステップ 3 NetBIOS 名を入力します。

NetBIOS 名は 15 文字以内であり、特殊文字を使用できません。



(注) デフォルトで、[NetBIOS name] フィールドには自動的にファイル エンジン のホスト名が入力されます。このホスト名が変化しても、NetBIOS フィールドは自動的に新しい名前に更新されません。

ステップ 4 ワークグループまたはドメイン名を短縮名形式で入力し、ワークグループ/ドメインが Windows NT 4 ドメインである場合は、**[NT Domain]** チェック ボックスを選択します。

たとえば、ドメイン名が `cisco.com` の場合、短縮形は `cisco` です。ワークグループまたはドメインが Windows 2000 または Windows 2003 ドメインの場合は、**[NT Domain]** チェック ボックスを選択しないでください。

[NT Domain] チェック ボックスを選択すると、ドメイン名と短縮名形式にピリオド (.) を入れることができますが、NT ドメインの完全修飾名を入力しないように注意してください。

ステップ 5 使用している Windows Internet Naming Service (WINS) サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ステップ 6 **[Use NTLMv2 authentication]** チェック ボックスを選択して、NTLMv2 認証を有効にします。



(注) すべてのクライアントのセキュリティ ポリシーが「Send NTLMv2 responses only/Refuse LM and NTLM」に設定された場合にのみ、NTLMv2 サポートを有効にします。クライアントが必要としないのに NTLMv2 を使用すると、認証が失敗することがあります。

ステップ 7 必要に応じて、次のオプションを選択します。

- **[Windows authentication for WAFS Management login]** — このチェック ボックスを選択すると、Windows ドメインを使用して、WAFS への Telnet、FTP、コンソール、SSH、およびユーザー インターフェイス (WAAS Central Manager GUI および WAE Device Manager) ログインを認証できます。
- WAAS Central Manager GUI を通じてユーザを追加するときは、ログイン パスワードが WAE に保存されているローカル ユーザとしてユーザを設定するオプションがあります。ローカル ユーザは WAE によって認証されますが、ローカルでないユーザは一般に Windows ドメイン認証を使用して確認されます。
- **[Windows authentication for file server failover]** — このチェック ボックスを選択すると、このデバイス用の切断モードが有効になります (このオプションは、Edge WAE だけに表示されます)。詳細については、「WAN 障害に対する WAAS ネットワークの準備」(p.11-37) を参照してください。

ステップ 8 Kerberos 認証を使用している場合は、**[Kerberos enabled]** チェック ボックスを選択し、次の情報を指定します。

- Kerberos 領域の完全修飾名。すべての Windows 2000 ドメインは Kerberos 領域ですが、領域名は常にドメイン名をすべて大文字にしたバージョンです。
- Key Distribution Center (KDC; 鍵発行局) の完全修飾名または IP アドレス。また、次の形式を使用してポートを指定することもできます。IP アドレスまたは名前: ポート番号。たとえば、10.10.10.2:88。
- 組織単位。

ステップ 7 で説明した 1 つ以上のボックスを選択しないと、Kerberos 認証を有効にできません。Kerberos を有効にしたら、WAE のクロックがドメイン コントローラのクロックの 5 分以内であることを確認します。そうでない場合は、ドメイン コントローラは、認証に Kerberos を使用しません。

Windows 2000 (SP4 搭載) または Windows 2003 (SP1 搭載) ドメイン コントローラを使用している場合は、Kerberos 認証を有効にする必要があります。

ステップ 9 LDAP サーバ署名を要求するようにドメイン コントローラを設定した場合は、WAAS CLI から **smb-conf section "global" name "ldap ssl" value "start_tls"** グローバル設定コマンドを使用して、WAE 上の LDAP サーバ署名を有効にする必要があります。 **smb-conf** コマンドを使用する方法については、『*Cisco Wide Area Application Services Command Reference*』を参照してください。

ステップ 10 [Register WAE with Domain Controller] チェック ボックスを選択します。



(注) Kerberos を有効または無効にするときは、WAE をドメインコントローラに登録し、Windows 認証を有効にするか、NetBIOS 名、ワークグループ、または Kerberos 領域を変更する必要があります。

チェック ボックスの下に、一連のフィールドが表示されます。これらのフィールドに次の情報を入力します。

- ドメイン コントローラ (IP アドレスでなく、名前を入力します)
- Kerberos が無効になっている場合のみ、ドメイン コントローラの NetBIOS 名を入力できます。Kerberos が有効になっている場合は、ドメイン コントローラの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) を入力できます。
- ドメイン管理者ユーザ名 (ユーザ名、ドメイン\ユーザ名、またはドメイン+ユーザ名を入力します)
- ドメイン管理者パスワード

ステップ 11 [Save] をクリックします。

Windows 認証設定が保存され、WAE がドメイン コントローラに登録されます。

ステップ 12 Windows 認証が正しく動作していることを確認します。「[Windows 認証ステータスの確認](#)」(p.10-15) を参照してください。

Windows 認証ステータスの確認

Windows 認証を有効にしたら、Windows 認証ステータスを確認し、認証問題の解決に有用な組み込みテストの結果を表示できます。

「[Windows 認証の設定](#)」(p.10-13) に説明されている設定を正しく構成しないと、Windows 認証問題が発生することがあります。また、ドメイン コントローラの設定が変化しても、問題が発生することがあります。

[Authentication Details] ウィンドウは、次の情報を表示します。

- winbind 認証テストのリスト
- 各テストの結果
- 合格または不合格の指標
- テストに合格しなかった理由を解明するためのヒント

Windows 認証ステータスを確認するには、次の手順に従ってください。

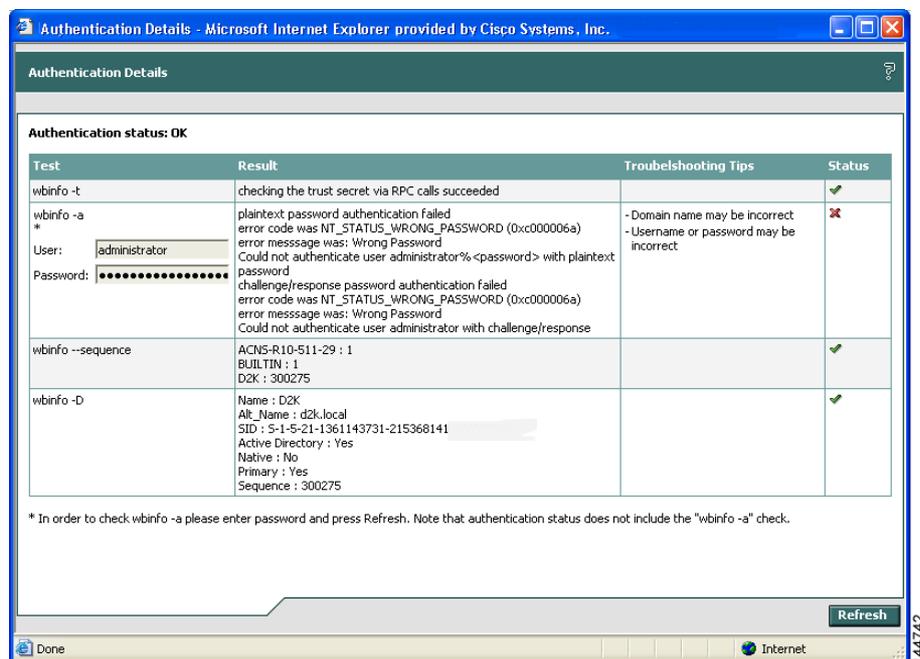
ステップ 1 [Windows Authentication] タブで、**[Show authentication status]** をクリックします。

認証ステータスが表示されるまでに時間がかかり、認証ステータスを取得するときに WAE のパフォーマンスが低下する場合がありますことを説明するメッセージが表示されます。

ステップ 2 メッセージ ダイアログボックスで、**[OK]** をクリックして続行するか、**[Cancel]** をクリックして認証詳細の表示を取り消します。

[OK] をクリックすると、[Authentication Details] ウィンドウが表示されます（[図 10-9](#) を参照）。

図 10-9 [Authentication Details] ウィンドウ



ステップ 3 ウィンドウの一番上にある [Authentication status] フィールドを確認します。

[status] フィールドが「OK」の場合、Windows 認証は正しく機能しています。このフィールドが「Not OK」の場合は、次の手順に進みます。

ステップ 4 各テストのステータスを表示し、提供される問題解決のヒントを使用して問題を解決します。

[表 10-1](#) で、これらのテストについて説明します。

表 10-1 認証テストの説明

テスト	説明
wbinfo -t	Samba サーバが Windows ドメインに追加されるときに作成されるワークステーション信用アカウントが動作していることを確認します。
wbinfo -a	指定したユーザ名とパスワードに基づいてドメイン認証証をテストします。このテストを実行するには、適切なユーザ名とパスワードを入力し、 [Refresh] をクリックします。テスト結果が表示されるのを待ちます。
wbinfo -D	ドメインに関する Samba からの情報を表示します。
wbinfo --sequence	すべての既知のドメインのシーケンス番号を表示します。
Time skew	WAE と KDC サーバ間の時間オフセットを表示します。時間オフセットは 5 分以内でなければなりません。そうでない場合、Windows KDC サーバは、認証に Kerberos を使用しません。WAAS CLI を使用して、WAE 上の時間を設定できます。 このテストは、Kerberos 認証が有効になっている場合のみ実行されます。

ステップ 5 **[Refresh]** をクリックして、すべてのテストが正常に完了することを確認します。

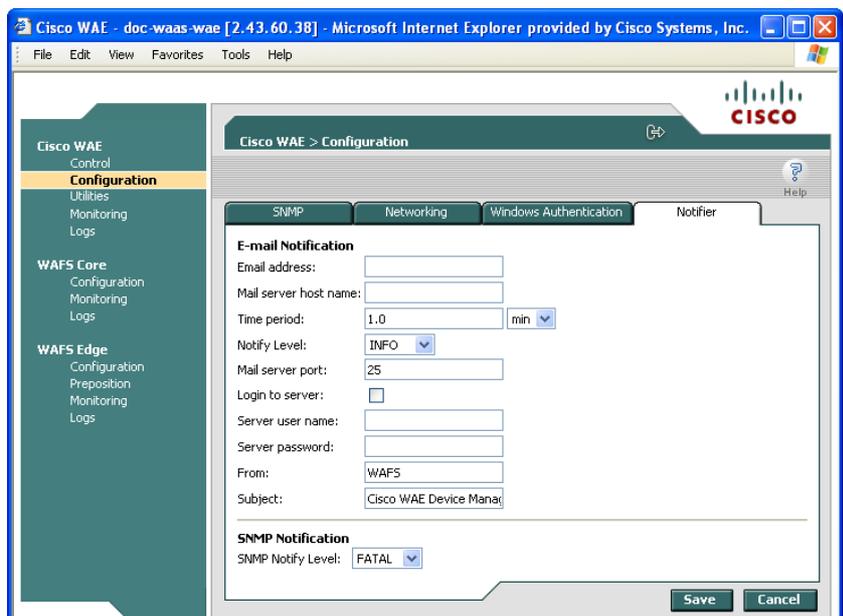
通知設定の定義

[Notifier] タブを使用すると、WAE がアラートを生成したときに通知を送信する電子メールアドレスを定義できます。

通知設定を定義するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [Configuration] ウィンドウで、**[Notifier]** タブをクリックします (図 10-10 を参照)。

図 10-10 [Notifier] タブ



- ステップ 2** [Email address] フィールドに、この WAE に関する通知を送信するアドレスを入力します。
- ステップ 3** [Mail server host name] フィールドに、メール サーバ ホストの名前を入力します。
- ステップ 4** [Time period] フィールドに、電子メールを送信するまでに通知を蓄積する時間を入力し、ドロップダウン リストから関連する時間単位 ([min] または [sec]) を選択します。
- ステップ 5** [Notify Level] ドロップダウン リストから、通知を生成するための最小イベント重大度を選択します。
- ステップ 6** [Mail server port] フィールドに、メール サーバに接続するためのポート番号を入力します。
- ステップ 7** 通知を送信するために WAE がメール サーバにログインする必要がある場合は、**[Login to server]** チェック ボックスを選択します。このオプションを選択すると、追加フィールドが有効になります。
- ステップ 8** [Server username] フィールドに、メール サーバにアクセスするためのユーザ名を入力します。
- ステップ 9** [Server password] フィールドに、メール サーバにアクセスするためのパスワードを入力します。
- ステップ 10** [From] フィールドに、各電子メール通知の [From] フィールドに表示する文面を入力します。
- ステップ 11** [Subject] フィールドに、各通知の標題として表示する文面を入力します。
- ステップ 12** [SNMP Notify Level] ドロップダウン リストから、SNMP 通知を生成するための最小イベント重大度を選択します。
- ステップ 13** [Save] をクリックします。

[Utilities] オプション

[Utilities] オプションは、次のタブを表示します。

- **[Support]** — サポート目的で WAE データを外部の位置にダンプできます。詳細については、「[サポート ユーティリティの実行](#)」(p.10-18) を参照してください。
- **[WAFS Cache Cleanup]** — WAFS キャッシュからすべてのファイルを削除できます。詳細については、「[Cache Cleanup ユーティリティの実行](#)」(p.10-20) を参照してください。
- **[File Server Rename]** — WAFS キャッシュ内のファイル サーバの名前を変更できます。詳細については、「[File Server Rename ユーティリティの実行](#)」(p.10-21) を参照してください。

サポート ユーティリティの実行

[Support] タブは、デバイスで動作する WAAS ソフトウェア バージョンとビルド番号を含む WAE に関する製品情報を表示します。

また、[Support] タブを使用すると、さまざまなコンポーネントの設定ログ ファイルなど、WAE とその動作の現在の状態のスナップショットを提供するシステム レポートをダウンロードできます。サポートが必要な場合、このレポートをシスコ テクニカル サポート (TAC) へ送信できます。



(注)

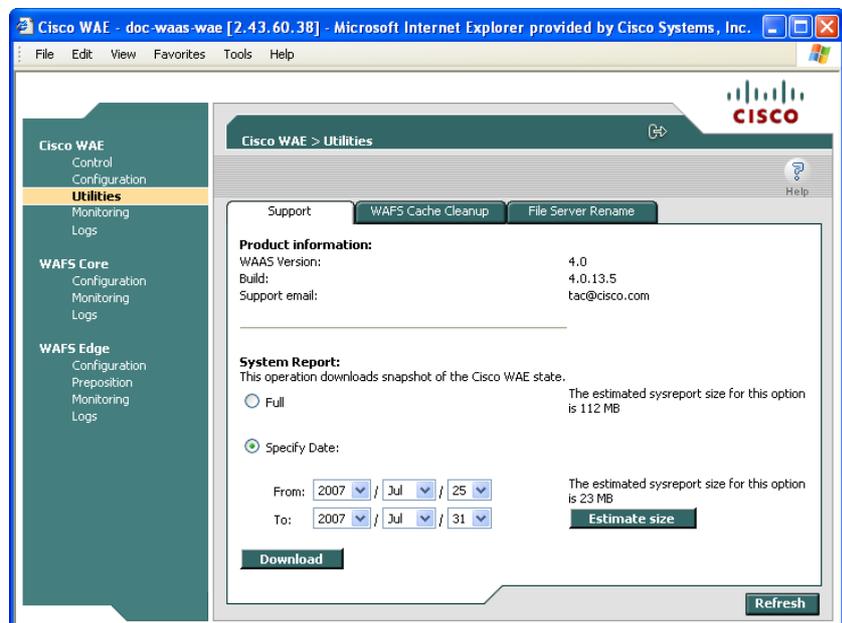
システム レポート全体をダウンロードすると、WAE のパフォーマンスに影響する場合があります。そのため、ピーク時間を避けてシステム レポートをダウンロードするか、レポートの日付範囲を制限することを推奨します。

システム レポートをダウンロードするには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [Configuration] ウィンドウで、**[Support]** タブをクリックします。

[Support] ウィンドウが表示されます (図 10-11 を参照)。

図 10-11 [Utilities] — [Support] タブ



ステップ 2 [System Report] 領域で、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- **[Full]** — システム レポート全体をダウンロードします。
- **[Specify Date]** — 指定した日付範囲のレポートをダウンロードします (デフォルトは過去 7 日間)。

ステップ 3 **[Estimate size]** をクリックして、レポートのサイズを表示します。

レポートの実際のサイズが見積りと異なる場合があります。見積りサイズが大きき場合は、日付範囲を狭くするか、レポートを分断して、WAE の負荷を最小限に抑えることができます。

ステップ 4 **[Download]** をクリックします。

レポートをダウンロードすると、デバイス上のすべてのサービスのパフォーマンスに影響する場合があります。あることを知らせるメッセージが表示されます。

- ステップ 5** [OK] をクリックして、収集プロセスを開始します。
- ステップ 6** [File Download] ウィンドウで、[Save] をクリックします。
- ステップ 7** [Save As] ウィンドウで、ファイルを保存したい位置まで移動します（また、ファイル名を変更することもできます）。[Save] をクリックします。ファイルが tar gzip 形式で保存されます。

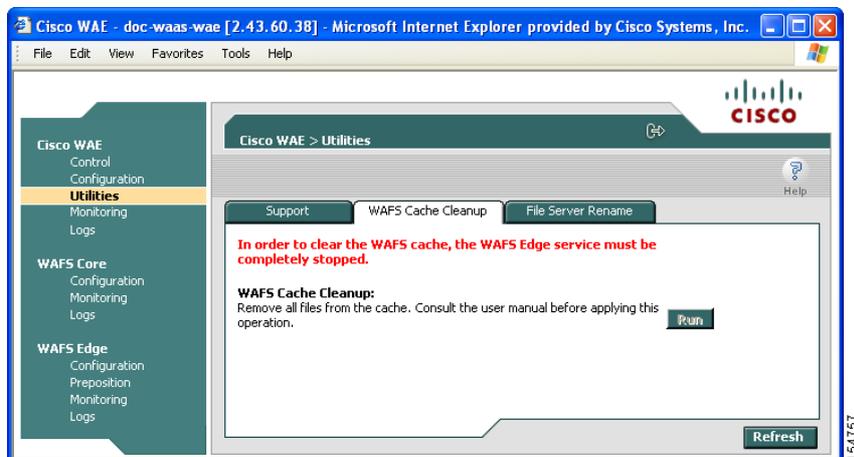
Cache Cleanup ユーティリティの実行

[WAFS Cache Cleanup] タブを使用すると、WAFS Edge デバイス キャッシュからすべてのファイルを削除できます。

Cache Cleanup ユーティリティを実行するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** 「コンポーネントの起動と停止」(p.10-6) の説明に従って、WAFS Edge コンポーネントを停止します。
- ステップ 2** [Utilities] ウィンドウで、[WAFS Cache Cleanup] タブをクリックします。
- [WAFS Cache Cleanup] ウィンドウが表示されます（図 10-12 を参照）。

図 10-12 [Utilities] — [WAFS Cache Cleanup] タブ



- ステップ 3** [Cache Removal] フィールドで、[Run] をクリックしてキャッシュの内容を削除します。

File Server Rename ユーティリティの実行

[File Server Rename] タブを使用すると、WAFS Edge デバイスで特定のファイル サーバ名のすべてのリソース用のリソース位置を変更できます。

File Server Rename ユーティリティを実行するには、次の手順に従ってください。

-
- ステップ 1** 「コンポーネントの起動と停止」(p.10-6)の説明に従って、WAFS Edge コンポーネントを停止します。
 - ステップ 2** [Utilities] ウィンドウで、[File Server Rename] タブをクリックします
 - ステップ 3** [Current File Server name] フィールドに、現在の名前を入力します。
 - ステップ 4** [New File Server name] フィールドに新しい名前を入力し、[Run] をクリックして新しい名前を有効にします。
-

WAFS Core の管理

移動領域の [WAFS Core] オプションを使用すると、選択した WAFS Core 設定を変更できます。[WAFS Core] オプションには、次のメニュー項目があります。

- **[Configuration]** — WAFS Core が接続しているファイル サーバを表示できます。また、通知設定を指定できます。詳細については、「[\[Configuration\] オプション](#)」(p.10-22) を参照してください。
- **[Monitoring]** — 「[Cisco WAE コンポーネントの監視](#)」(p.10-30) の説明に従って、表とグラフに WAFS Core 統計情報を表示できます。
- **[Logs]** — WAFS Core に関するイベント ログを表示できます。詳細については、「[Cisco WAE ログの表示](#)」(p.10-39) を参照してください。

[Configuration] オプション

WAFS Core コンポーネント用の [Configuration] オプションは、次のタブを表示します。

- **[CIFS Servers]** — WAFS Core が接続する CIFS ファイル サーバに関する読み取り専用の情報を表示できます。詳細については、「[CIFS サーバの表示](#)」(p.10-22) を参照してください。
- **[Notifier]** — WAFS Core がアラートを生成したときに通知を送信する電子メールアドレスを定義できます。詳細については、「[通知設定の定義](#)」(p.10-17) を参照してください。

CIFS サーバの表示

[CIFS Servers] タブを使用すると、この WAFS Core に接続している登録済みの CIFS ファイル サーバに関する読み取り専用の情報を表示できます。WAAS Central Manager GUI を使用して、ファイルサーバを WAAS ネットワークに登録します (第 11 章「[WAFS の設定](#)」を参照してください)。

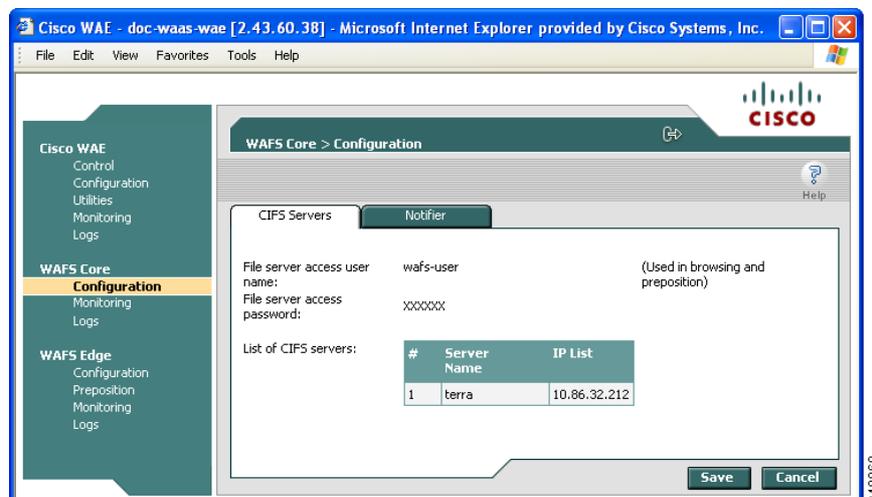


(注)

WAAS Central Manager に未登録の自動的に検出されたファイル サーバは、[CIFS Servers] タブには表示されていません。

CIFS サーバを表示するには、[WAFS Core Configuration] ウィンドウで **[CIFS Servers]** タブをクリックします (図 10-13 を参照)。

図 10-13 [WAFS Core Configuration] — [CIFS Servers] タブ



[CIFS Servers] タブには、この WAFS Core デバイスに接続している CIFS ファイル サーバをリスト表示する表があります。

WAFS Edge デバイスの管理

移動領域の [WAFS Edge] メニュー項目を使用すると、選択した WAFS Edge 設定を変更できます。さらに、WAFS Edge デバイスが生成する通知の特定の受信者を定義し、事前配置作業を監視できます。

[WAFS Edge] オプションには、次のメニュー項目があります。

- **[Configuration]** — WAFS Edge デバイスを設定できます。詳細については、「[\[Configuration\] オプション](#)」(p.10-23) を参照してください。
- **[Preposition]** — WAAS Central Manager GUI で作成した事前配置ポリシーの進行状況を監視できます。さらに、オプションで事前配置作業を停止できます。詳細については、「[\[Preposition\] オプション](#)」(p.10-25) を参照してください。
- **[Monitoring]** — 「[Cisco WAE コンポーネントの監視](#)」(p.10-30) の説明に従って、表とグラフに WAFS Edge デバイス統計情報を表示できます。
- **[Logs]** — WAFS Edge デバイスに関するイベント ログを表示できます。詳細については、「[Cisco WAE ログの表示](#)」(p.10-39) を参照してください。

[Configuration] オプション

[Configuration] オプションは、次のタブを表示します。

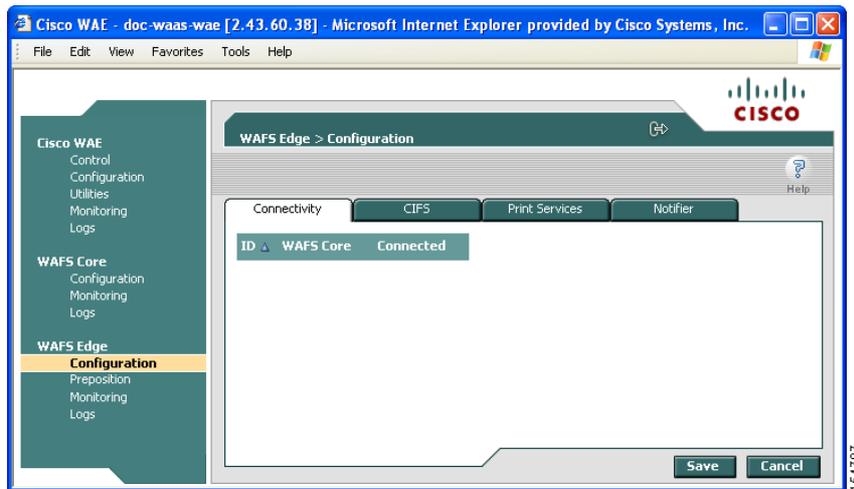
- **[Connectivity]** — WAFS Edge デバイスが接続している WAFS Core に関する読み取り専用の情報を表示できます。詳細については、「[WAFS Core 接続の表示](#)」(p.10-23) を参照してください。
- **[CIFS]** — WAFS Edge デバイスが Windows の環境に接続するために使用する名前登録パラメータに関する読み取り専用の情報を表示できます。詳細については、「[CIFS 設定の表示](#)」(p.10-24) を参照してください。
- **[Print Services]** — WAFS Edge デバイス用の印刷サービスを設定できます。印刷サービスを構成する詳細については、[第 13 章「WAAS 印刷サービスの設定および管理」](#) を参照してください。
- **[Notifier]** — WAFS Edge デバイスがアラートを生成したときに通知を送信する電子メールアドレスを定義できます。電子メール通知の詳細については、「[通知設定の定義](#)」(p.10-17) を参照してください。

WAFS Core 接続の表示

[Connectivity] タブを使用すると、この WAFS Edge デバイスの WAFS Core 接続に関する読み取り専用の情報を表示できます。

WAFS Core 接続を表示するには、[WAFS Edge Configuration] ウィンドウで **[Connectivity]** タブをクリックします (図 10-14 を参照)。

図 10-14 [WAFS Edge Configuration] — [Connectivity] タブ



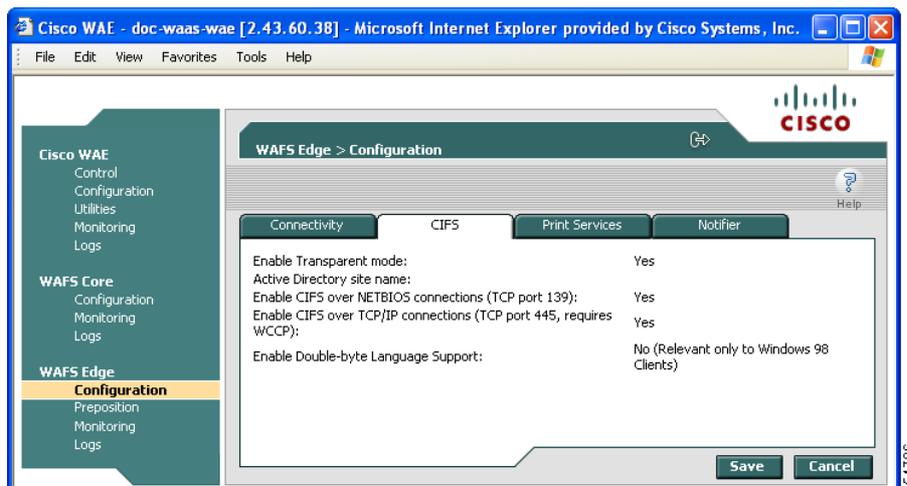
[Connectivity] タブには、この WAFS Edge デバイスに接続している WAFS Core クラスタと現在の接続ステータスを表示する表が含まれています。

CIFS 設定の表示

[CIFS] タブを使用すると、WAFS Edge デバイスの CIFS 設定に関する読み取り専用の情報を表示できます。

CIFS 設定を表示するには、[WAFS Edge Configuration] ウィンドウで [CIFS] タブをクリックします (図 10-15 を参照)。

図 10-15 [WAFS Edge Configuration] — [CIFS] タブ



[CIFS] タブには、WAFS Edge デバイス用の CIFS 設定のリストが含まれています。CIFS は、Central Manager のみから設定できます。詳細については、「エッジデバイスの設定」(p.11-13) を参照してください。

[Preposition] オプション

[Preposition] オプションを使用すると、WAAS Central Manager GUI で作成した事前配置ポリシーの詳細と現在の状態を表示できます。これらのポリシーは、事前に設定したスケジュールに従って、どのファイルを事前に WAFS Edge デバイス キャッシュに配置するかを定義します。事前配置を使用すると、システム管理者は、効率を改善し、エンドユーザがそれらのファイルに高速にアクセスできるように、ピーク時間外に、頻繁にアクセスされる大型のファイルを戦略的にネットワークエッジに配置できます。

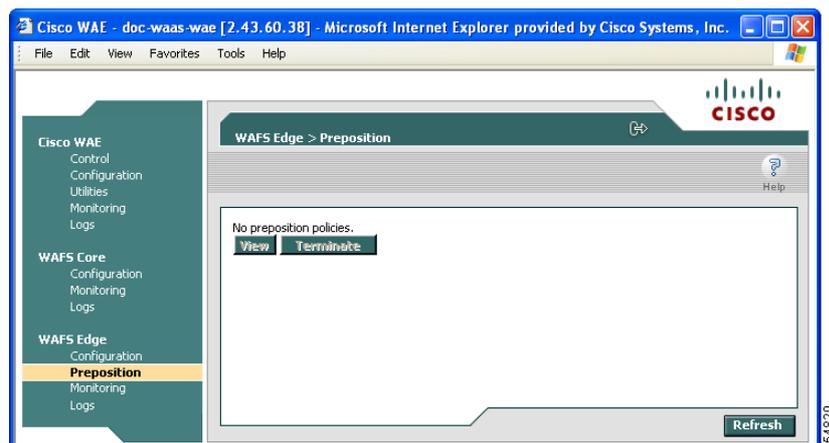
事前配置するファイルを含むルート ディレクトリ、各ポリシーのスケジュール、および各ポリシーの最新の作業のステータスのような情報を表示できます。また、各ポリシーの詳細な作業履歴を表示し、進行中の任意の作業を手動で停止できます。

この WAFS Edge デバイス用の事前配置ポリシーを表示するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 移動領域で、[Preposition] をクリックします。

[WAFS Edge > Preposition] ウィンドウが表示されます (図 10-16 を参照)。

図 10-16 [WAFS Edge > Preposition] ウィンドウ



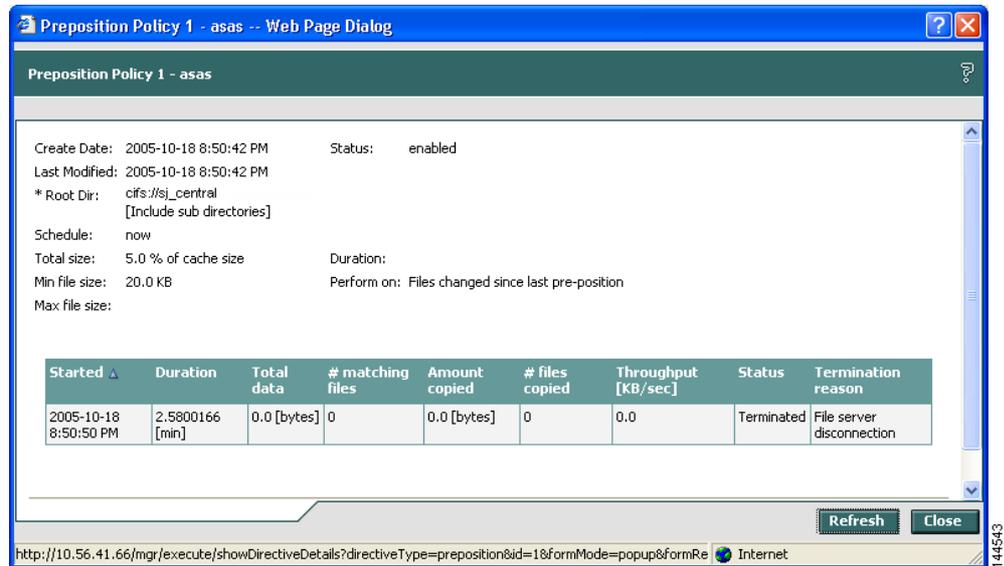
[Preposition] ウィンドウには、この WAFS Edge デバイスに割り当てられているすべての事前配置ポリシーを表示する表が含まれています。各ポリシーについて、次の情報が表示されます。

- **ID** — 選択したポリシーの ID 番号
- **Description** — ポリシーに割り当てられている説明的な名前
- **Root Directory** — 事前に配置する内容の元のディレクトリ
- **Schedule** — ポリシーに設定されたスケジュール
- **Started** — システムがこのポリシーを最後に起動した日時
- **Duration** — 最新の作業の経過時間
- **Status** — 更新ボタンがクリックされるたびに更新されるポリシーの現在の状態。ポリシーで定義されている作業が現在実行されている場合、そのステータスは In Progress になります。進行中の事前配置作業を停止することができます。

ステップ 2 詳細な作業履歴（選択したポリシーの反復）を表示するには、表からポリシーを選択し、[View] をクリックします。

[Preposition Task Details] ウィンドウが表示されます（図 10-17 を参照）。

図 10-17 [Preposition Task Details] ウィンドウ



[Preposition Policy] ウィンドウの上部には、選択したポリシーに関する次の詳細が表示されます。

- **[Create Date]** — ポリシーが作成された日時
- **[Last Modified]** — ポリシーが最後に変更された日付
- **[Total size]** — 事前配置するファイルの合計サイズに設定された制限値（存在する場合）
- **[Min file size]** — ポリシーの影響を受けるルート ディレクトリ（および事前配置ポリシーに含まれるサブディレクトリ）内のファイルの最小サイズ
- **[Max file size]** — ポリシーの影響を受けるルート ディレクトリ（および事前配置ポリシーに含まれるサブディレクトリ）内のファイルの最大サイズ
- **[Perform on]** — 選択した位置から事前に配置するファイル（最後の事前配置後に変更されたファイル、定義された時間中に変更されたファイル、またはすべてのファイル）

[Preposition Policy] ウィンドウの下部には、選択したポリシーで実行された最新の作業（最大で最後の 10 反復）を表示する、次の情報を含む表が含まれています。

- **[Total data]** — ポリシーで転送されるデータの合計量
- **[# matching files]** — ポリシーの定義済みフィルタと一致するファイルの数
- **[Amount copied]** — ポリシーの最新の実行でコピーされたデータの合計量（ポリシーが現在進行中である場合や、時間制約などのためにポリシーが完了しなかった場合、この量は、[Total data] フィールドに表示される量より少ない場合があります）
- **[# files copied]** — ポリシーの最新の実行でコピーされたファイルの数
- **[Throughput]** — ポリシーが達成したスループット（Kbps）
- **[Termination reason]** — ポリシーが停止した理由（関連する場合）。ポリシーは、時間的、空間的制約で停止したり、管理者が手動で停止する場合があります。

ステップ 3 [Close] をクリックして、[Policies] ウィンドウへ戻ります。



(注) [Policies] ウィンドウに表示される情報を更新するには、[Refresh] をクリックします。

事前配置作業の停止

進行中の事前配置作業を任意の時点で停止することができます。事前配置作業を停止しても、作業を生成した事前配置ポリシーは削除されません。システムは、次のスケジュール時間になると、ポリシーに記述された作業を実行します。

事前配置作業を停止するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [Policies] ウィンドウで、ステータスが In Progress のポリシーを選択し、[Terminate] をクリックします。確認メッセージが表示されます。

ステップ 2 [Yes] をクリックして作業を停止します。[View] をクリックして [Preposition Policy] ウィンドウを表示すると、作業履歴を表示する表に、最新の作業が管理者によって停止されたことを示すメッセージが含まれます。

WAE の監視

Cisco WAE、WAFS Core、および WAFS Edge コンポーネントで使用できる [Monitoring] オプションを使用すると、WAE の現在の状態を示す詳細表を表示できます。また、選択したコンポーネントに関する履歴データを表示するグラフも提供されます。これらのグラフを使用すると、日、週、月、または年間の WAE 統計情報を追跡できます。



(注)

WAE 統計情報とグラフは、フリーウェアの MRTG ユーティリティによって生成されます。詳細については、<http://people.ee.ethz.ch/~oetiker/webtools/mrtg/> を参照してください。

表 10-2 に示すように、監視オプションは WAE コンポーネントごとに異なります。

表 10-2 コンポーネント別の監視オプション

コンポーネント	監視される統計情報
Cisco WAE	CPU とディスク ドライブの利用率
WAFS Core	接続
WAFS Edge	接続、CIFS トラフィック、およびキャッシュ

監視の詳細については、次の項を参照してください。

- [監視グラフについて \(p.10-28\)](#)
- [Cisco WAE コンポーネントの監視 \(p.10-30\)](#)
- [WAFS Core の監視 \(p.10-31\)](#)
- [WAFS Edge デバイスの監視 \(p.10-33\)](#)

監視グラフについて

Cisco WAAS ソフトウェアは、監視統計ごとに 4 つの履歴グラフを生成します。各グラフは、次のように、選択したデータの異なる時間範囲を網羅します。

- **[Daily]** — 過去 24 時間のデータを表示します。各データ点は、平均 5 分を表します。
- **[Weekly]** — 過去 7 日間のデータを表示します。各データ点は、平均 30 分を表します。
- **[Monthly]** — 過去 5 週間のデータを表示します。各データ点は、平均 2 時間を表します。
- **[Yearly]** — 過去 12 か月のデータを表示します。各データ点は、平均 1 日を表します。

これらのグラフの下に、それぞれの時間範囲での最大値と監視される統計値の現在の値も表示されます。

表示オプション

特定の統計情報（接続しているセッションなど）に関する 4 つの履歴グラフを同時に表示したり、そのコンポーネントに使用できるすべての監視対照統計情報に関する日別グラフだけの索引ウィンドウを表示できます。

[図 10-18](#) に、ユーザが特定の統計情報に関する履歴グラフを表示することを選択したときの画面の例を示します。

図 10-18 グラフ画面の例

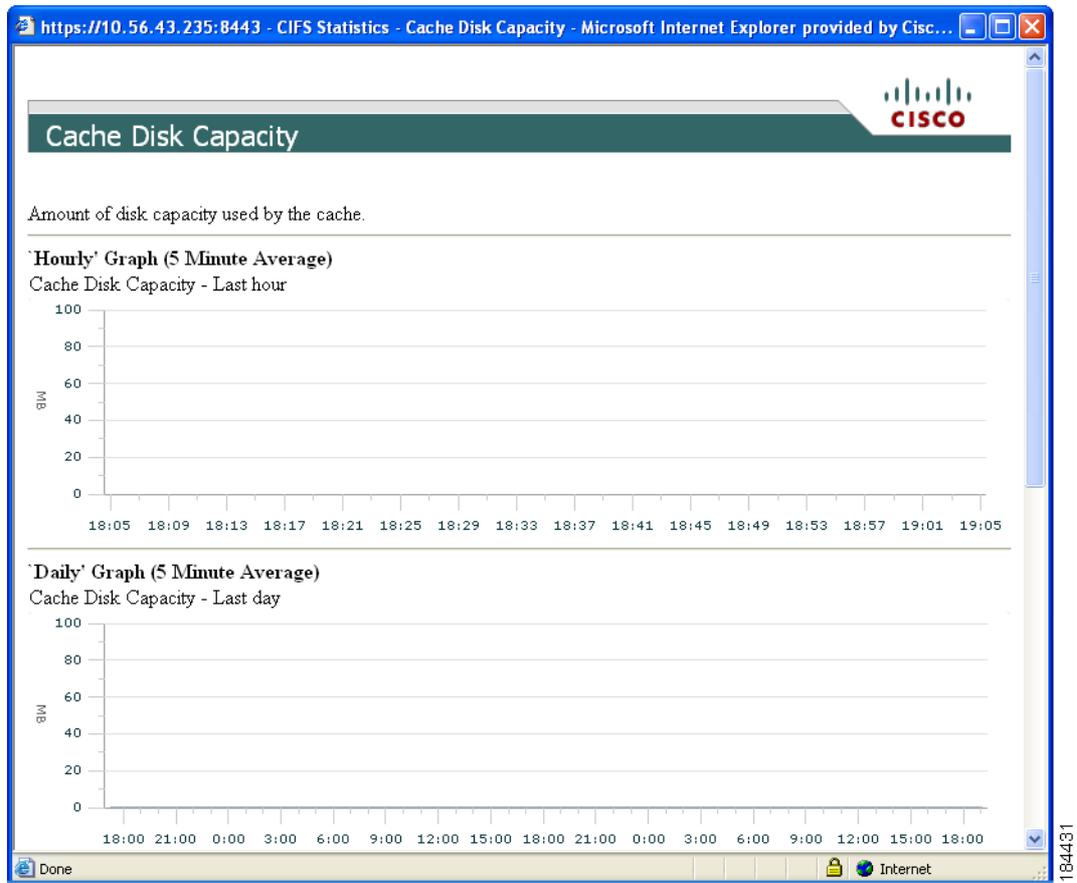
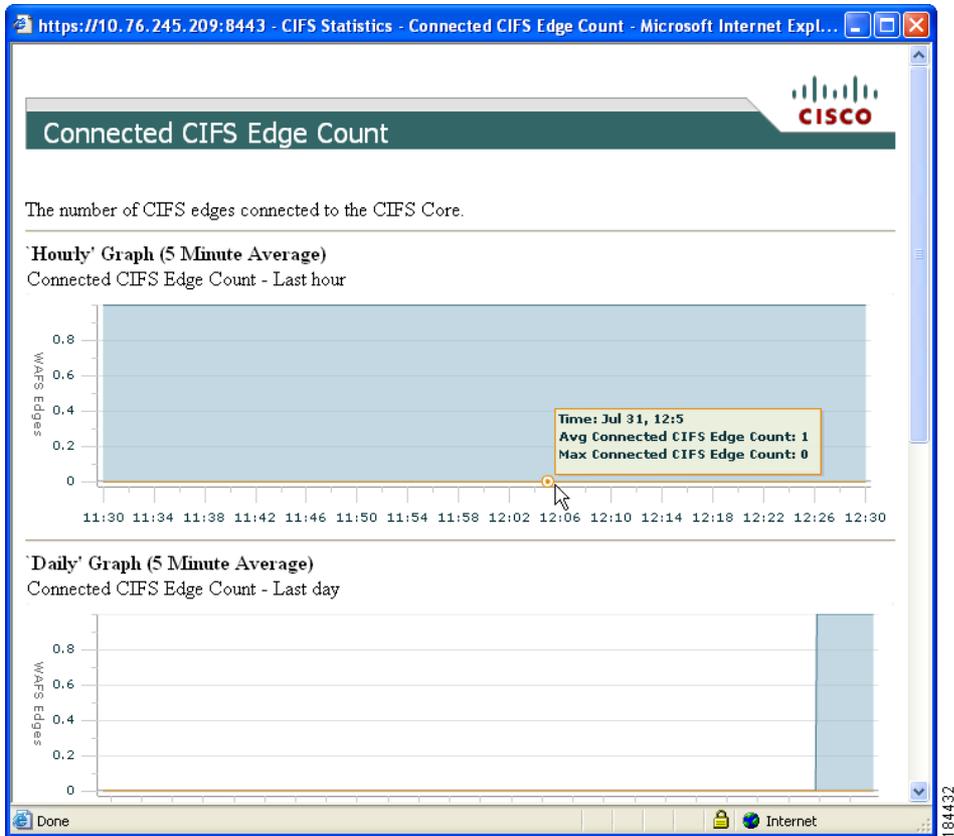


図 10-19 に、ユーザが索引グラフを表示するときの画面の例を示します。

図 10-19 索引グラフ画面の例



ヒント

索引ウィンドウの各グラフは、リンクとして機能します。グラフをクリックすると、選択した統計情報に関する 4 つの履歴グラフすべてが表示されます。たとえば、WAFS Edge 索引グラフ ウィンドウで [Open Files Count] をクリックすると、日、週、月、および年間の Open Files Count 履歴グラフすべてが表示されます。ブラウザで [戻る] ボタンをクリックすると、索引グラフへ戻ります。



(注)

ブラウザの [印刷] コマンドを使用すると、グラフを印刷できます。

Cisco WAE コンポーネントの監視

Cisco WAE コンポーネント用の [Monitoring] オプションは、WAE で監視される統計情報の表を表示します。この表から、WAE の中央処理装置 (CPU) の利用率とディスク ドライブの利用率を示す履歴グラフを表示できます。

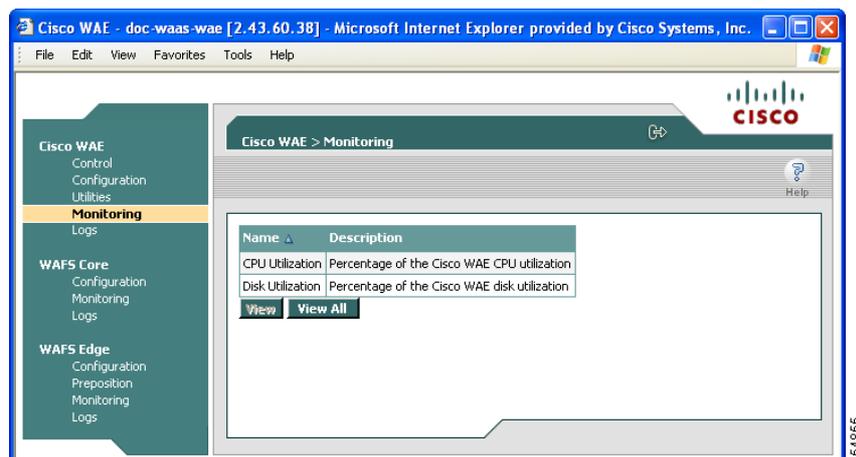
CPU 利用率は、CPU が使用する帯域幅と使用できる合計帯域幅の比率です。数値は、% で表示されます。ディスク ドライブ利用率は、すべてのディスク ドライブで使用されているディスク容量と使用できる合計ディスク容量の比率です。この数値も、% で表示されます。

WAE コンポーネントを監視するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 移動領域で、[Cisco WAE] メニュー項目の下にある [Monitoring] をクリックします。

[Cisco WAE Monitoring] ウィンドウが表示されます (図 10-20 を参照)。

図 10-20 [Cisco WAE Monitoring] ウィンドウ



ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- 表示したい統計情報 (その行をクリックして) を選択し、[View] をクリックして、その統計情報に関する履歴グラフを含むポップアップ ウィンドウを表示します。
- [View All] をクリックして、WAE コンポーネントの両方の統計情報に関する日別グラフを含む索引ウィンドウを表示します。

WAFS Core の監視

[WAFS Core] メニュー項目の [Monitoring] オプションは、次の 2 つのタブを表示します。

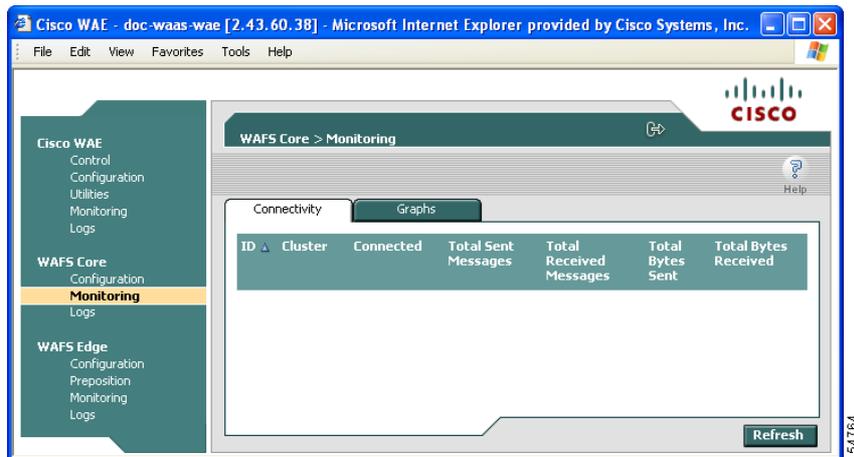
- [Connectivity] — WAFS Core に関する接続統計情報の表を表示します。この表は、デフォルトで表示されます。
- [Graphs] — WAFS Core で利用できるグラフのリストを表示します。

WAFS Core コンポーネントを監視するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 移動領域で、WAFS Core コンポーネントの下にある [Monitoring] をクリックします。

[WAFS Core Monitoring] ウィンドウに、[Connectivity] タブが表示されます (図 10-21 を参照)。

図 10-21 [WAFS Core Monitoring] — [Connectivity] タブ

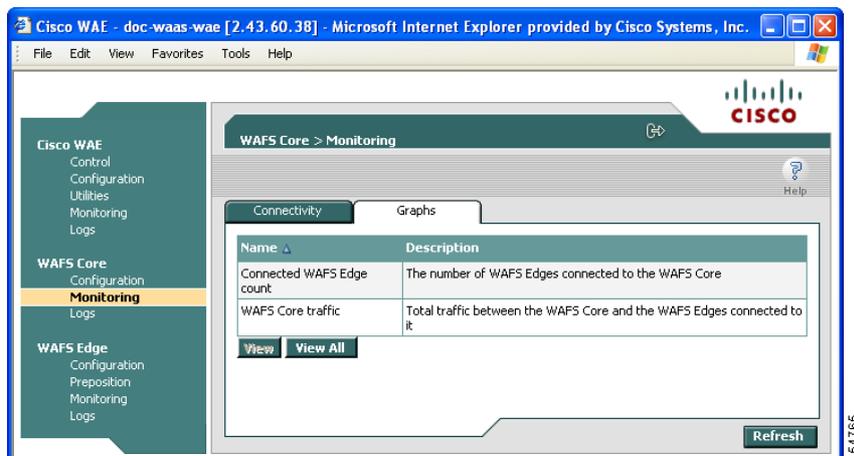


[Connectivity] タブは、WAFS Core に関する次のデータを含む表を表示します。

- **[ID]** — WAFS Core の英数字のシステム ID
- **[Cluster]** — この WAFS Core が所属するコア クラスタの名前（ある場合）
- **[Connected]** — WAFS Core が、現在その WAFS Edge デバイスに接続されている (✓) か、切断されている (✗) かの指標
- **[Total Sent Messages]** — アクティブ化されてからこの WAFS Core が送信したメッセージの総数
- **[Total Received Messages]** — アクティブ化されてからこの WAFS Core が受信したメッセージの総数
- **[Total Bytes Sent]** — アクティブ化されてからこの WAFS Core が送信したバイトの総数
- **[Total Bytes Received]** — アクティブ化されてからこの WAFS Core が受信したバイトの総数

ステップ 2 [Graphs] タブをクリックします (図 10-22 を参照)。

図 10-22 [WAFS Core Monitoring] — [Graphs] タブ



WAFS Core コンポーネントには、次の履歴グラフが使用できます。

- **[Connected WAFS Edge counts]** — 選択した WAFS Core に現在接続している WAFS Edge デバイスの台数。このグラフは、WAFS Edge デバイスの切断を検出するために有用です。

- **[WAFS Core traffic]** — WAFS Core とそれに接続している各 WAFS Edge デバイス間のトラフィックの総量（キロビット）。緑色の折れ線は、送信したトラフィックを表します。青色の折れ線は、受信したトラフィックを表します。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- 表示したい統計情報（その行をクリックして）を選択し、**[View]** をクリックして、その統計情報に関する履歴グラフを含むポップアップ ウィンドウを表示します。
- **[View All]** をクリックして、WAFS Core コンポーネントの両方の統計情報に関する日別グラフを含む索引ウィンドウを表示します。

WAFS Edge デバイスの監視

[Monitoring] オプションは、次のタブを表示します。

- **[Connectivity]** — WAFS Edge デバイスに関する接続統計情報の表を表示します。
- **[CIFS]** — CIFS プロトコルと選択した WAFS Edge デバイスのステータスに関するデータを表示します。
- **[Cache]** — WAFS Edge デバイス キャッシュに関するデータを表示します。
- **[Graphs]** — WAFS Edge デバイス使用できるグラフのリストを表示します。



(注)

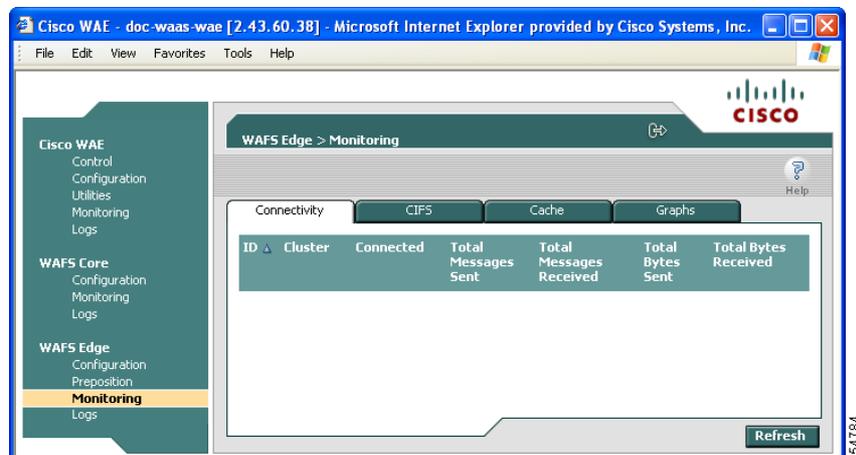
[CIFS] タブと [Cache] タブに表示される SNMP パラメータは、特殊な MIB ファイルに入っています。

WAFS Edge デバイスを監視するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 移動領域で、[WAFS Edge] メニューの下にある **[Monitoring]** をクリックします。

[WAFS Edge Monitoring] ウィンドウが表示されます（[図 10-23](#) を参照）。

図 10-23 [WAFS Edge Monitoring] — [Connectivity] タブ



[Connectivity] タブは、WAFS Edge デバイスに関する次のデータを含む表を表示します。

- **[ID]** — WAFS Edge デバイスの英数字のシステム ID
- **[Cluster]** — この WAFS Edge デバイスが接続しているコア クラスタの名前（存在する場合）
- **[Connected]** — WAFS Edge デバイスが、現在 WAFS Core に接続されている（✔）か、切断されている（✘）かの指標
- **[Total Messages Sent]** — アクティブ化されてからこの WAFS Edge デバイスが送信したメッセージの総数
- **[Total Messages Received]** — アクティブ化されてからこの WAFS Edge デバイスが受信したメッセージの総数
- **[Total Bytes Sent]** — アクティブ化されてからこの WAFS Edge デバイスが送信したバイトの総数
- **[Total Bytes Received]** — アクティブ化されてからこの WAFS Edge デバイスが受信したバイトの総数

ステップ 2 [CIFS] タブをクリックします

[CIFS] タブは、次の CIFS 関連情報を表示します。

- **[Total Time Saved]** — CIFS アクセラレーションによって節約された時間の合計
- **[Total KBytes read]** — クライアントが、CIFS プロトコルを使用してこの WAFS Edge デバイスから読み取ったキロバイト総数（キャッシュ経由とリモートの両方）
- **[Total KBytes written]** — クライアントが、CIFS プロトコルを使用してこの WAFS Edge デバイスに書き込んだキロバイト総数
- **[Remote requests count]** — WAN 経由で WAFS Core にリモート転送されクライアント CIFS 要求の総数。この統計情報の名前は、履歴グラフを表示するために使用できるリンクです（最初に [Graphs] タブへ進む必要がありません）。これらのグラフには、ローカル要求も表示されます。
- **[Local requests count]** — この WAFS Edge デバイスがローカルに処理したクライアント CIFS 要求の総数。この統計情報の名前は、履歴グラフを表示するために使用できるリンクです（最初に [Graphs] タブへ進む必要がありません）。これらのグラフには、リモート要求も表示されます。
- **[Total remote time]** — この WAFS Edge デバイスが、WAFS Core にリモート送信されたすべてのクライアント CIFS 要求を処理するために使用した合計時間（ミリ秒）
- **[Total local time]** — この WAFS Edge デバイスが、ローカルに処理されたすべてのクライアント CIFS 要求を処理するために使用した合計時間（ミリ秒）
- **[Connected sessions count]** — この WAFS Edge デバイスで接続している CIFS セッションの総数。この統計情報の名前は、日、週、月、および年間のグラフを表示するために使用できるリンクです（最初に [Graphs] タブへ進む必要がありません）。
- **[Open files count]** — この WAFS Edge デバイスで開いている CIFS セッションの総数。この統計情報の名前は、日、週、月、および年間のグラフを表示するために使用できるリンクです（最初に [Graphs] タブへ進む必要がありません）。
- **[CIFS Command Statistics]** — CIFS コマンドの統計情報の表。要求の総数、リモート要求数、非同期要求数、ローカルに処理された各要求をこの WAFS Edge デバイスで処理した平均時間（ミリ秒単位）、WAFS Core にリモートで送信された各要求をこのデバイスで処理した平均時間（ミリ秒単位）を、コマンドタイプごとに表で示します。

CIFS 統計情報をリセットするには、表の下の **[Reset CIFS Statistics]** ボタンをクリックします。

ステップ 3 [Cache] タブをクリックします

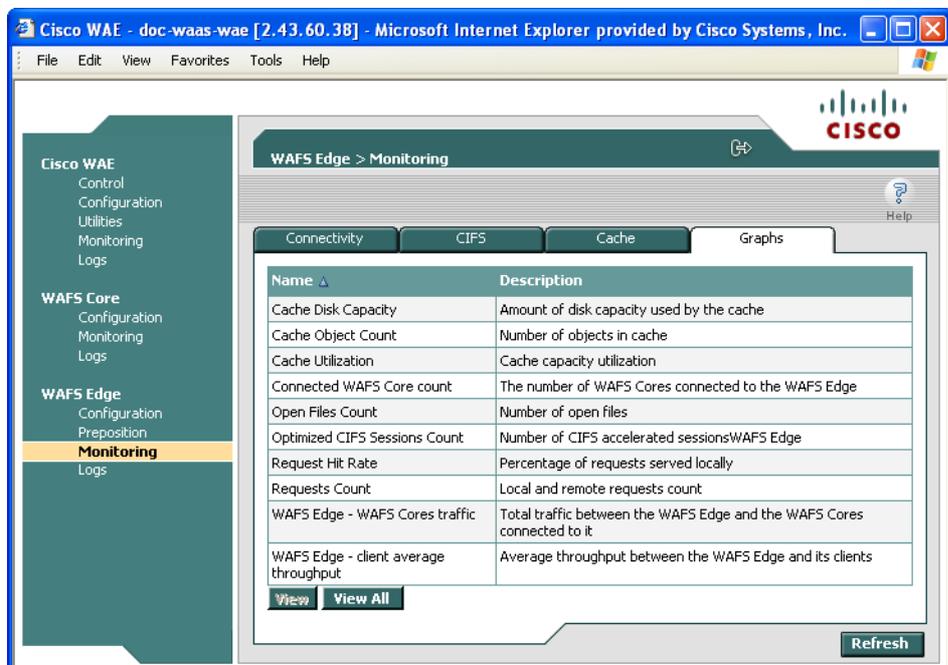
[Cache] タブは、次の情報を表示します。

- **[Maximum cache disk size]** — WAFS Edge デバイス キャッシュに割り当てられた最大ディスク容量（ギガバイト）

- **[Current cache disk usage]** — WAFS Edge デバイス キャッシュが現在使用しているディスク容量 (キロバイト)。この統計情報の名前は、履歴グラフを表示するために使用できるリンクです (最初に [Graphs] タブへ進む必要がありません)。
- **[Maximum cache resources]** — WAFS Edge デバイス キャッシュに許容されるリソース (ファイルとディレクトリ) の最大数
- **[Current cache resources]** — WAFS Edge デバイス キャッシュに現在含まれているリソースの数。この統計情報の名前は、履歴グラフを表示するために使用できるリンクです (最初に [Graphs] タブへ進む必要がありません)。
- **[Evicted resources count]** — Edge WAE が起動してからキャッシュから除去されたリソースの数
- **[Last eviction time]** — キャッシュから最後に除去された日時
- **[Cache size high watermark]** — WAFS Edge デバイスがリソースの除去を開始するディスク使用率 (%)
- **[Cache size low watermark]** — WAFS Edge デバイスがリソースの除去を停止するディスク使用率 (%)
- **[Cache resources high watermark]** — WAFS Edge デバイスがリソースの除去を開始する合計キャッシュ リソースの比率 (%)
- **[Cache resources low watermark]** — WAFS Edge デバイスがリソースの除去を停止する合計キャッシュ リソースの比率 (%)
- **[Last evicted resource age]** — 最後に除去されたリソースが、WAFS Edge デバイス キャッシュに存在した時間
- **[Last evicted resource access time]** — 最後に除去されたリソースが最後にアクセスされた日時

ステップ 4 [Graphs] タブをクリックします (図 10-24 を参照してください)。

図 10-24 [WAFS Edge Monitoring] — [Graphs] タブ



184433

WAFS Edge デバイスには、次の履歴グラフが使用できます。

- **[Cache Disk Capacity]** — WAFS Edge デバイス キャッシュが使用するディスク容量 (メガバイト)
- **[Cache Object Count]** — キャッシュに含まれるオブジェクト (ファイルとディレクトリ) の総数
- **[Cache Utilization]** — 定義された制限値に基づいてキャッシュが使用するディスク容量の比率 (%) とリソースの比率 (%)
- **[Connected WAFS Core count]** — 選択した WAFS Edge デバイ스에接続している WAFS Core の数



(注) WAFS Edge デバイスは、可用性を改善するために複数の WAFS Core に接続できます。

- **[Open Files Count]** — 開いている CIFS ファイルの総数
- **[Optimized CIFS Sessions count]** — 選択した WAFS Edge デバイスでアクセラレートされた CIFS セッションの数
- **[Request Hit Rate]** — (WAN 経由でユーザが要求した内容のファイル サーバへリモート送信されるユーザ要求と異なり) キャッシュが応答したユーザ要求の比率 (%)
- **[Requests Count]** — ローカル処理された要求 (Edge WAE キャッシュが応答したクライアント要求) の平均比率とリモート処理された要求 (リモート ファイル サーバが応答したクライアント要求) の平均比率。要求カウントは、1 秒あたりの要求数で表示されます。
- **[WAFS Edge - WAFS Core traffic]** — WAFS Edge デバイスとそれに接続している各 WAFS Core 間のトラフィックの総量 (キロバイト)。緑色の折れ線は、送信したトラフィックを表します。青色の折れ線は、受信したトラフィックを表します。
- **[WAFS Edge - client average throughput]** — WAFS Edge デバイスとそれがサービスするクライアント間のトラフィックの総量と合計稼働時間 (アイドル時間を含む) の比率。キロバイト / 秒で表示されます。

ステップ 5 次のいずれかを実行します。

- 表からグラフを選択し、**[View]** をクリックして、選択した統計情報に関する 4 つの履歴グラフを表示するポップアップ ウィンドウを表示します。
- **[View All]** をクリックして、WAFS Edge デバイスに関する日別グラフを含む索引ウィンドウを表示します。

WAE ログの表示

Cisco WAE、WAFS Core、および WAFS Edge コンポーネントがログに記録したイベント情報を表示できます。使用できるイベント情報は、表示しているコンポーネントによって変化します。

WAE ログを表示する詳細については、次の項を参照してください。

- [WAE ログについて \(p.10-37\)](#)
- [Cisco WAE ログの表示 \(p.10-39\)](#)

WAE ログについて

次の項の説明に従って、各ログファイルに表示する内容を設定し、ファイルにログをローカルに保存できます。

- [表示基準の設定 \(p.10-37\)](#)
- [ログ項目の表示 \(p.10-38\)](#)
- [ログファイル情報の保存 \(p.10-38\)](#)

表示基準の設定

図 10-25 に示すように、すべての WAE ログに表示したいデータの基準を設定できます。

図 10-25 WAE ログ データの基準

The screenshot shows a configuration form for WAE log data. It includes two rows of date and time pickers. The first row is labeled 'From:' and the second row is labeled 'To:'. Each row has dropdowns for year, month, day, and hour. To the right, there is a 'Log Level:' dropdown set to 'All', a 'Lines' dropdown set to '100', and a 'Filter:' text input field. An 'Update' button is located to the right of the filter field. A small number '137327' is visible in the bottom right corner of the form area.

ログ情報を表示する基準を設定するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [From] ドロップダウン リストから、開始日付（年、月、および日）と時刻（24 時間制の時と分）を選択します。
- ステップ 2** [To] ドロップダウン リストから、終了日付（年、月、および日）と時刻（24 時間制の時と分）を選択します。
- ステップ 3** （任意） [Log Level] ドロップダウン リストから、イベントの最小重大度を選択します。
最小重大度を選択すると、指定した重大度より大きいすべてのイベントが表示されます。デフォルトは [All] です。
- ステップ 4** （任意） [Lines] ドロップダウン リストから、ログの 1 ページに表示するイベントの数（1 行当たり）を選択します。
デフォルトは、100 イベントです。
- ステップ 5** （任意） ログをさらに選別するためのフィルタ文字列を入力します。
- ステップ 6** [Update] をクリックします。

ログ項目の表示

各ログ項目には、イベントの発生日時、イベントの重大度、およびログメッセージを含む説明が含まれます。ログメッセージの形式は、イベントの種類によって変化します。

イベントの重大度は、イベントの深刻さを示します。6つの選択肢が定義され、次の情報を提供します。

- **All** — すべての重大度のイベントが表示されます。
- **Debug** — デバッグ用に指定されたイベントと一致するイベントが発生したことを示します。
- **Info** — コンポーネントの正しい動作に関するイベントが発生したことを示します。この種類のイベントには、処置は不要です。
- **Warning** — コンポーネントで軽度の問題が発生したことを示します。コンポーネントは、自動的に回復可能です。
- **Error** — コンポーネントの正しい動作に影響する問題が発生したことを示します。処置が必要になる可能性があります。
- **Fatal** — コンポーネントで動作が停止する問題が発生したことを示します。処置が必要です。

ログ ファイル情報の保存

ログをテキストファイルとして保存し、ローカルドライブへダウンロードすることができます。

ログをテキストファイルとして保存するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 [From] ドロップダウンリストと [To] ドロップダウンリストを使用して、保存したい期間を設定します（「[表示基準の設定](#)」[\[p.10-37\]](#)を参照してください）。

ステップ 2 表示したいイベントの重大度を設定します。

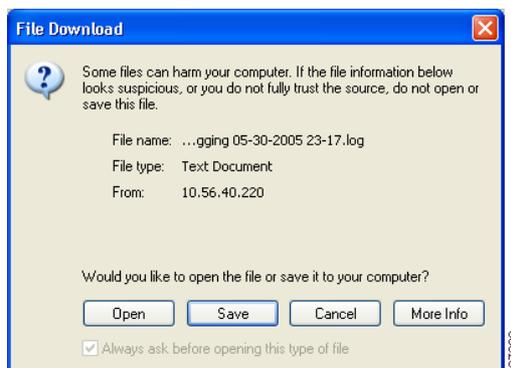
詳細については、「[表示基準の設定](#)」([p.10-37](#))を参照してください。

ステップ 3 [Update] をクリックします。

ステップ 4 [Download] をクリックします。

[File Download] ウィンドウが表示されます（[図 10-26](#)を参照してください）。

図 10-26 [File Download] ウィンドウ



ステップ 5 [Save] をクリックします。

ステップ 6 ログ ファイルを保存したいディレクトリを指定します。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

Cisco WAE ログの表示

各 WAE コンポーネントは、それ自身のログ ファイルを生成します。

Cisco WAE コンポーネントは、3 つのログを生成します。

- **Manager ログ** — 設定の変更、WAE の登録、および他の WAE コンポーネントの起動または停止の通知のような WAE Device Manager と WAAS Central Manager GUI コンポーネントに関するイベントを表示します。
- **WAFS Watchdog ログ** — WAE 内の他のアプリケーション ファイルを監視し、必要なら再起動する、監視ユーティリティに関するイベントを表示します。
- **Utilities ログ** — WAFS Cache Cleanup ユーティリティに関するイベントを表示します。

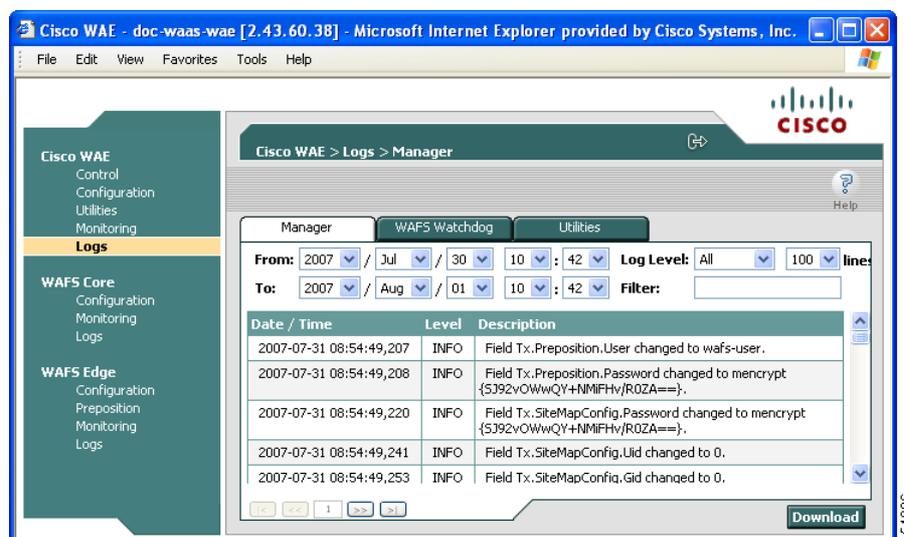
WAFS Core は、WAFS Core 動作に関するすべてのイベントを表示する 1 つのログを生成します。また、WAFS Edge デバイスは、WAFS Edge 動作に関するすべてのイベントを表示する 1 つのログを生成します。

Cisco WAE、WAFS Core、または WAFS Edge コンポーネント ログを表示するには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 移動領域で、Cisco WAE、WAFS Core、または WAFS Edge コンポーネントの下にある **[Logs]** オプションをクリックします。

図 10-27 に、Cisco WAE コンポーネント用の [Logs] ウィンドウを示します。

図 10-27 Cisco WAE コンポーネントの [Logs] ウィンドウ



194806

■ WAE ログの表示

- ステップ 2** Cisco WAE を選択した場合は、[Manager]、[Watchdog]、または [Utilities] タブをクリックし、表示したいログを選択します。
- ステップ 3** [From]、[To]、[Level]、および [Lines] ドロップダウン リストを使用して、表示基準を設定します（「表示基準の設定」 [p.10-37] を参照してください）。
- ステップ 4** （任意） [Filter] テキスト ボックスに関連する自由文面を入力して、特定の語や句を含むイベントだけが表示されるように、ログのフィルタを設定します。
- ステップ 5** [Update] をクリックします。選択した基準に従って、[Logs] ウィンドウが更新されます。



(注) イベントの数がウィンドウ当たりを選択した行数を超えると、各ログ ウィンドウの一番下に移動矢印（）が表示されます。